

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

基準 4	教育内容・方法・成果
42	教育課程・教育内容

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
421	【大学全体の視点】 教育課程編成・実施の方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	【大学全体の視点】 ①方針に基づき、順次性のある授業科目を体系的に配置していますか。【※どのように】 ○年次指定、セメスター、グレイドナンバー等の活用	B	B
		【大学全体の視点】 ②専門教育と教養教育の位置づけを明確にし、学士課程として体系的に編成していますか。【※どのように】 ○履修要項におけるカリキュラムマップ等の明示	B	
422	【大学全体の視点】 教育課程編成・実施の方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供していますか。	【大学全体の視点】 ③方針に基づき、学部の特徴を反映した教育内容を提供していますか。【※どのように】 ○学部の特色と教育課程との関連	A	A

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。
点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

421①各学部・研究科の「教育課程編成・実施の方針」に基づき、教授会等においてカリキュラム編成を行い、授業科目を体系的に配置している。具体的には、履修の順次性を確保するための先修制の導入や、セメスター制の学年暦のもと配当年次を設定するなどして体系的に授業科目を配置している。グレイドナンバー制については、現在5学部（文学部、経済学部、経営学部、法学部、政策学部）が導入しているが、学部間で基準が異なっており、グレイドナンバー制と配当年次の関係性、DP・CPとの整合性が明確化されていない。また、教養教育科目の新カリキュラムではグレイドナンバーが付与されていない。このような現状を踏まえ、学部長会で検討を行った結果、従来のグレイドナンバー制に留まらず、DP・CPにおける専攻科目と教養教育科目の関係性、また個々の授業科目の順次性や体系性を全学的に確認するためにカリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリングを用いた確認体制の構築に向けて検討するという基本的方向性が確認された（第26回学部長会（2015.12.3）了承）。今後、基本的方向性に基づき、教務会議を通じて具体的に検討を進めることとなった（第1回全学教学会議（2016.2.15）承認）。

421②専攻科目と教養教育科目に区分し、それぞれの位置づけを履修要項に示している。各学部の授業科目群は、専攻科目と教養教育科目から編成しており、①に記載したとおり、教授会等において体系的なカリキュラム編成を行っている。教養教育科目については、カリキュラム改革に伴い各学部にあわせて新・旧カリキュラムを適用し、各科目を合併開講するなどして2019年度の完成を目指し整備を進めている。

422③「教育課程編成・実施の方針」に基づき、授業科目ごとに到達目標を設定してシラバスに明示し、各学部
 の教育課程に相応しい教育内容を提供している。シラバスに記載する項目については、教務会議で全学的に審議・
 決定しているが、記載内容については、各学部の特色を反映した教育内容をそれぞれの裁量で記載している。
 また、認証評価の分科会報告書では、「アジア・アフリカ総合研究プログラム」の授業科目に不開講となっている
 ものが多いという指摘がなされていることから、まずは現状把握を行った。その結果、法学研究科は 20 科目提
 供のうち 14 科目が不開講、経済学研究科は 16 科目提供のうち 4 科目が不開講、国際文化学研究科は 29 科目提
 供のうち 14 科目が不開講 (※) という現状を確認した。本プログラムは、3 つの研究科が相互に科目を提供して編
 成していることから、今後、提供科目を精選するなど各研究科に改善を求める必要がある。

(※) 国際文化学研究科は全科目を隔年開講としている。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（〔改
 善勧告〕【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

（自ら「改善すべき点」と掲げた事項）

学生の段階的な履修を支援するために、科目の難易度を学生に示す「グレイドナンバー制」を一部の学部等で
 導入しているが、認証評価等で求められている順次性や系統的履修といった教育効果の考え方とは、現在リンク
 していない。また、本学の「グレイドナンバー制」は全学的な取り組みには至っておらず、かつ導入している学
 部等の間でも説明や基準に齟齬が見受けられる。これらのことを踏まえ、教務会議で確認した検討スケジュール
 に従い、引き続き、関係機関で検討の上、各学部等にて改善に取り組む。

（評価結果で「改善すべき点（〔改善勧告〕【努力課題】【留意点】）」とされた事項）

- ・導入している「グレイドナンバー制」と「配当年次」（配当セメスター含む）の具体的な基準（科目配置を決定
 する指標）等について、DP、DP に定める「学生に保証する基本的な資質」と CP の内容との整合や、順次性
 や系統的履修といった教育効果を視野に入れながら再検討し、学士課程全体の体系性・順次性を明確にするた
 め、「カリキュラムマップ」等に基づいた「カリキュラム評価」や「ナンバリング」の導入についても検討する
 必要がある。改善計画・実行 PLAN に示している検討スケジュールに従い、改善していただきたい。【努力課
 題】
- ・「アジア・アフリカ総合研究プログラム」の授業科目に不開講となっているものが多いと認証評価分科会報告書
 において指摘を受けている点について、記述していただきたい。【留意点】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

従来のグレイドナンバー制に留まらず、DP・CP における専攻科目と教養教育科目の関係性、また個々の授業科
 目の順次性や体系性を全学的に確認するためにカリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリングを用いた確認
 体制の構築に向けて検討するという基本的方向性を学部長会において確認した。今後、基本的方向性に基づき、
 教務会議を通じて具体的に検討を進めることとなった。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・グレイドナンバー制については、導入している学部間で基準が異なっており、グレイドナンバー制と配当年次
 の関係性、DP・CP との整合性が明確化されておらず、認証評価等で求められている順次性や系統的履修とい
 った教育効果の考え方とは、リンクしていない。
- ・従来のグレイドナンバー制に留まらず、DP・CP における専攻科目と教養教育科目の関係性、また個々の授業
 科目の順次性や体系性を全学的に確認するためにカリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリングを用いた
 確認体制の構築に向けて、教務会議を通じて具体的に検討する。
- ・「アジア・アフリカ総合研究プログラム」は、3 つの研究科が相互に科目を提供して編成していることから、今
 後、提供科目を精選するなど各研究科に改善を求め、アジア・アフリカ総合研究プログラム運営委員会で具
 体的な検討を開始する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
421	2015 年度 第 24 回 学部長会議事録（抜粋）
421	2015 年度 第 26 回 学部長会議事録（抜粋）
421	2015 年度 第 1 回全学教学会議 議事録（抜粋）
422	2015 年度 アジア・アフリカ総合研究プログラム 特別演習・プログラム科目

II. 評価結果

総評
導入している「グレイドナンバー制」と「配当年次」（配当セメスター含む）の具体的な基準（科目配置を決定する指標）等の継続的な課題について、カリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリングを用いた確認体制の構築に向けて検討するという基本的方向性を確認し（第 26 回学部長会（2015.12.3）了承）、今後、基本的方向性に基づき、教務会議を通じて具体的に検討を進めることとなった（第 1 回全学教学会議（2016.2.15）承認）点については評価できる。 この点については、「三つの方針の策定及び運用に関するガイドライン」を踏まえた、3 つのポリシーの一体的策定と関連づけて検討に入っていただきたい。 なお、「アジア・アフリカ総合研究プログラム」に限らず、継続的に不開講となっている科目は、ポリシーの保証の観点から問題であるので、その取り扱いについても検討していただきたい。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
・「三つの方針の策定及び運用に関するガイドライン」を踏まえた、3 つのポリシーの一体的策定と関連づけて、カリキュラムチェックリスト及び科目ナンバリングを用いた確認体制の構築に向けて、早急に検討を開始していただきたい。【努力課題】 ・「アジア・アフリカ総合研究プログラム」に限らず、継続的に不開講となっている科目は、ポリシーの保証の観点から問題であるので、その取り扱いについても検討していただきたい。【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

Ⅲ. 大学基準協会からの助言について

助言内容

【認証評価結果 長所】

- 1) 文学部、経済学部、経営学部、法学部および政策学部において、学生が学修計画を立てる際の参考となるよう、科目のレベルを簡明に示す「グレイドナンバー制」を採用し、これに則して授業科目を体系的に開設していることは評価できる。
- 2) 法学研究科および政策学研究科による研究科横断型プログラム「NPO・地方行政研究コース」では、「地域リーダーシップ研究」「先進的地域政策研究」など地方自治体やNPOから入学してくる現職職業人と学部卒の学生がともに教育と研究に参加できるような授業科目が設置されており、そのシナジー効果をねらった教育が試みられていることは評価できる。

【分科会報告書 課題】

- 1) 研究科のプログラムには、「アジア・アフリカ総合研究プログラム」があるが、当該プログラムにおける授業科目については不開講となっているものが多い。

Ⅳ. 全学的課題事項

2015 年度	■評価項目 No.421 導入している「グレイドナンバー制」と「配当年次」（配当セメスター含む）の具体的な基準（科目配置を決定する指標）等について、DP、DP に定める「学生に保証する基本的な資質」と CP の内容との整合や、順次性や系統的履修といった教育効果を視野に入れながら再検討し、学士課程全体の体系性・順次性を明確にするため、「カリキュラムマップ」等に基づいた「カリキュラム評価」や「ナンバリング」の導入についても検討する必要がある。改善計画・実行 PLAN に示している検討スケジュールに従い、改善していただきたい。【努力課題】
---------	---